

アジア・アフリカ学術基盤形成事業セミナー実施報告書

平成 21 年 7 月 3 日

独立行政法人日本学術振興会 殿

<コーディネーター：立命館大学産業社会学部・荒木穂積>

セミナー実施報告書を次のとおり作成しましたので提出します。

セ ミ ナ ー 名		第 3 回「東アジア発達障害児の治療教育プログラム開発に関するセミナー」
開 催 期 間		平成 21 年 6 月 1 日 ~ 平成 21 年 6 月 4 日 (4 日間)
開 催 地		ベトナム社会主義共和国、ハノイ市、ハノイ師範大学
責 任 本 者 側	氏 名	荒木穂積
	所属機関・職名	立命館大学産業社会学部・教授
開 催 者 (日本以外で開催の場合)	氏 名 (英 文)	(ベトナム) Nguyen Thi Hoang Yen (Vietnam) Nguyen Thi Hoang Yen (中国) 黄辛隠 (China) Huang Xin Yin
	所属機関・職名 (英 文)	(ベトナム国) ハノイ師範大学障害児教育学科・学科長兼障害児教育センター長 (Vietnam) Dean, Associate Professor, Hanoi University of Education, Department of Special Education (中国) 蘇州大学教育学院・教授 (China) Professor, Soochow University, School of Education

セミナーの概要及び成果

【概要】

(セミナーの目的、本会経費により参加した参加者の役割や貢献についても示してください)

今回はベトナムで開催を予定している2回のセミナーのうちの最初のセミナーであった(本事業では通算3回目のセミナー)。今回のセミナーは1つのセミナーと3つのワークショップで構成された。

セミナーでは、今回は早期発見・早期対応をメインテーマにおいて実施した。今回のセミナーは3つのパートで構成されていた。パート1では、ホープセンター(ハノイ市)で実際に取り組まれている発達診断、個別指導計画作成についての理論と実際について報告を受け討論を行った。また併せて、日本・大津市での乳幼児健診システムおよび発達診断の役割について報告を受けた。パート2では、中国の発達障害児教育における早期対応の現状を北京星星雨教育研究所の事例をもとに報告を受け討論を行った。併せて中国・上海市での親のニーズ調査の中間報告を受け討論を行った。パート3では、ベトナムの発達障害児教育における早期対応の現状についてホーチミン市のドリーム・スクール(就学前の障害児学校)の事例をもとに報告を受け討論を行った。併せてベトナム・ハノイ市での親のニーズ調査の中間報告を受け討論を行った。セミナーは公開で行われ、ハノイ市、ホーチミン市などから研究者、実践家、親が参加した。

また、セミナーの他にワークショップを行った。ワークショップは3つのセッションで構成されていた。ワークショップ(6月1日午後に実施)では、国際共同研究「発達障害児の親支援のための調査」(3カ国の先行研究)の進捗状況の報告と本調査に向けての調査項目最終確定のための討議を行った。ワークショップ(6月3日に実施、終日)では、ハノイ師範大学障害児教育センターで取り組まれている幼児期の発達障害児の早期対応プログラムの報告を中心に研究交流をすすめた。午前中はプログラムの実際をグループに分かれて観察した。ワークショップ(6月4日午前に実施)では、ハノイ市内にある中央幼児師範大学附属障害児センターを訪問視察し、発達障害児の早期対応プログラムの実際について研究交流をすすめた。なお、ワークショップは原則非公開で行われたが、参加登録メンバー以外の研究者、実践家も参加した。

なお、次回セミナー(通算4回目)を2009年11月16日～19日(予定)にハノイで開催することを決定した。

【成果】

今回のセミナー(通算第3回目)の成果として以下の諸点を指摘することができる。

第1は、3カ国ですすめてきた国際共同研究「発達障害児の親支援のための調査」の本調査に向けて最終的な合意がなされたことである。昨年度末から先行研究に取り組んできたが、これをふまえ本調査へとすすむことが3カ国の関係者間で合意された。合意内容は、調査項目および実施方法について、3カ国の実情をふまえつつ将来比較研究へとすすめることについて最終合意がなされた。

第2は、ベトナムで実際に実施されている早期対応のプログラムの実施について研究交流が深められたことである。ハノイ師範大学、ホープセンターおよび中央幼児師範大学障害児センターで取り組まれている発達診断、個別指導計画、早期対応プログラムの実際を観察・視察・討論することによって、この分野のベトナムの現状についての理解が深まったことである。開催地を変えてセミナーを実施する意義の一つがここにあるといえる。また、現場の教師や専門家との研究交流も貴重な機会となった。

第3は、国際共同研究や国際会議に接する機会の少ないベトナム(ハノイ師範大学、中央幼児師範大学および関係機関)の若手研究者やスタッフがセミナーに多数参加してきたことである。また遠くホーチミン市からの参加者が10名近くあったことも特筆すべきことである。ハノイ師範大学の若手スタッフは準備および当日への参加を通じて、セミナー参加者との国際交流がすすみ、ネットワーク形成の基盤づくりに役だったといえる。

また、ベトナム国内の事情であるが、セミナーの開催を契機にハノイ師範大がなど大学と実践現場との実践研究交流がすすみベトナム国内での発達障害児・者関係のネットワーク形成をすすんだことも大きな成果の一つである。これが将来への足がかりとなってベトナム国内での発達障害児研究のネットワークへと発展していくことが期待される。

参加者

「参加研究者リスト」に記入されている参加者数 26

人

(「参加研究者リスト」の研究者番号を記入してください。経費負担の別により区別すること。＜
A：セミナー経費より負担。B：共同研究・研究者交流経費より負担。C：本事業経費からは負担
しない。＞)(形式任意)

研究者番号	氏名	所属・職位	経費区分
1-1	荒木穂積	立命館大学産業社会学部・教授	C
1-4	竹内謙彰	立命館大学産業社会学部・教授	A
1-6	中村隆一	立命館大学応用人間科学研究科・教授	A
1-9	中原一精	立命館大学・サブプロジェクトマネージャー	C
1-10	榎蔵千恵子	立命館大学・プロジェクトマネージャー	C
1-15	張鋭	立命館大学・後期課程院生	A
1-25	荒木美知子	大阪女子短期大学・准教授	B
2-1	Nguyen Thi Hoang Yen	ハノイ師範大学障害児教育学科・学科長	C
2-2	Tran Thu Ha	ハノイ・ホープセンター・副センター長	C
2-3	Nguyen Quynh Son	ハノイ・ホープセンター・センター長	C
2-5	HOANG Thi Nho	ハノイ師範大学障害児教育学科・講師	C
2-6	NGUYEN THI Thanh Binh	Ho Chi Minh University of Education・Dean	C
2-7	Bui Thi Lam	ハノイ師範大学障害児教育学科・講師	C
2-8	Tran Thi Thiep	ハノイ師範大学障害児教育学科・講師	C
2-9	Cao Thi	Ho Chi Minh University of Education・	C

	Xuan My	Lecturer	
2-10	Do Nghiem Thanh Phuong	ハノイ師範大学障害児教育学科・講師	C
2-11	Tran Thi Minh Thanh	ハノイ師範大学障害児教育学科・講師	C
2-13	Dinh Ngyuen Trang Thu	ハノイ師範大学障害児教育学科・講師	C
2-14	Nguyen Thanh Hoa	Training and Deelopment Centre for Special Education・Lecturer	C
2-15	Nguyen Nu Tam An	ハノイ国立教育大学障害児教育学科・講師	C
2-17	Dao Thi Bich Thuy	ハノイ師範大学 Training and Deelopment Centre for Special Education・Associate Director	C
2-18	Nguyen Ha Ly	ハノイ師範大学 Training and Deelopment Centre for Special Education・Lecturer	C
2-19	Ho Thi Net	ハノイ師範大学 Training and Deelopment Centre for Special Education・Lecturer	C
3-1	黄辛隠	蘇州大学・教授	A
3-3	田恵萍	北京星星雨教育研究所・所長	A
3-6	孙时进	复旦大学・教授	A

「参加研究者リスト」に記入されていない一般参加者数 延べ人数 約 60 人

(ア) セミナー参加者 約 50 人 (ワークショップ参加者との重複有り)

(イ) ワークショップ参加者 延べ約 10 人

(ウ) 事務及び施設管理者 約 20 人 (参加者には含めず)

日程及び課題（セミナー関連資料があれば添付すること）

別途、下記の資料を添付いたします。

1．2009 年第 3 回東アジアセミナースケジュール.doc（メール添付）

2．6 月 2 日開催セミナー配布資料（荒木穂積）（メール添付）

日本語版のみ。ほか中国語、ベトナム語による資料を作成し配布した。

3．セミナーの様子（写真画像）（メール添付）

4．ワークショップの様子（写真画像）（メール添付）